



平成 29 年 8 月 14 日

各 位

東京都新宿区西新宿 3 丁目 20 番 2 号  
株式会社クロス・マーケティンググループ  
代表取締役社長兼 CEO 五十嵐 幹  
(コード番号：3675 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 CFO 小野塚 浩二  
(TEL. 03-6859-2250)

当社連結子会社 Kadence International Business Research Pte.Ltd.(以下、Kadence 社)に  
おける株式譲渡契約に基づく株式取得対価の追加支払いによるのれん償却費、減損損失の計上及び  
第2四半期連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 11 月 14 日に締結した Kadence International Business Research Pte.Ltd.(以下、Kadence 社)の株式譲渡契約(以下、本契約)において平成 27 年 6 月期～平成 29 年 6 月期※1の業績条件に基づき、株式取得の対価を追加的に支払う契約となっており、業績条件の対象期間である平成 29 年 6 月期まで終了するとともに、平成 29 年上期の Kadence 社の業績進捗が非常に良く、本契約上一定の基準となっていた業績条件を達成することとなったことにより 10 百万 US ドル(約 1,120 百万円※2)を支払うことになりました。このため、平成 29 年 12 月期においてのれん償却費の追加計上(取得原価の遡及的增加)及び減損損失の計上を行うこととなりました。また、最近の業績動向などを踏まえ、平成 29 年 2 月 14 日に公表した平成 29 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)の業績予想と実績数値との差異が発生するとともに、平成 29 年 12 月期通期(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)の業績予想を下表の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

※1:Kadence 社の決算期が 6 月期決算のため当該期間を業績確認の期間としております。

※2:1USドル=112円換算の場合

記

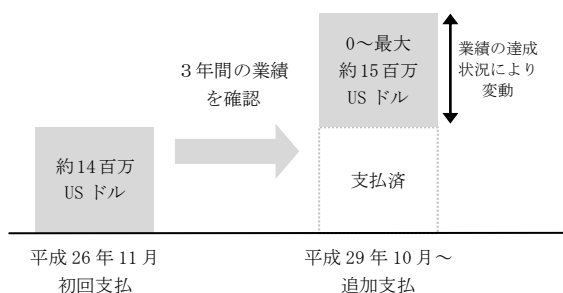
1. Kadence 社における本契約の業績条件確定によるのれん償却費、減損損失の追加計上について

当社は、平成 26 年 11 月 14 日の取締役会において Kadence 社の株式取得を決議し、同日株式譲渡契約を締結いたしました。本契約における株式取得対価として、株式取得時(平成 26 年 11 月)に約 14 百万 US ドルを、さらに平成 27 年 6 月期～平成 29 年 6 月期の業績に基づき最大で約 15 百万 US ドルを追加的に支払う契約となっておりましたが、平成 29 年 6 月期までの業績が確定したため、10 百万 US ドルを支払うことになりました。

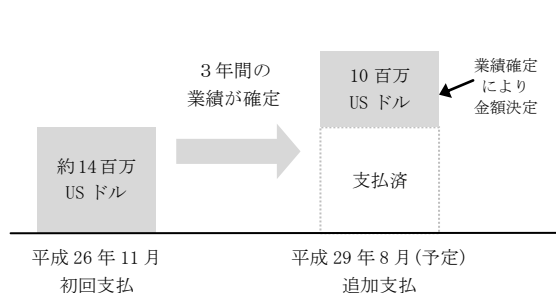
株式取得対価の追加支払いの発生により、当社が Kadence 社の株式取得を行ったタイミングから株式取得対価の追加支払いが発生するまでの期間に対応したのれん償却費、減損損失を計上することといたしました。株式取得対価の追加支払いの条件(1)、のれん償却費、減損損失の内容(2)、平成 29 年 12 月期における当社の連結業績への影響について(3)は下記の通りです。

(1)株式取得対価の追加支払い条件について

<当初の予定>



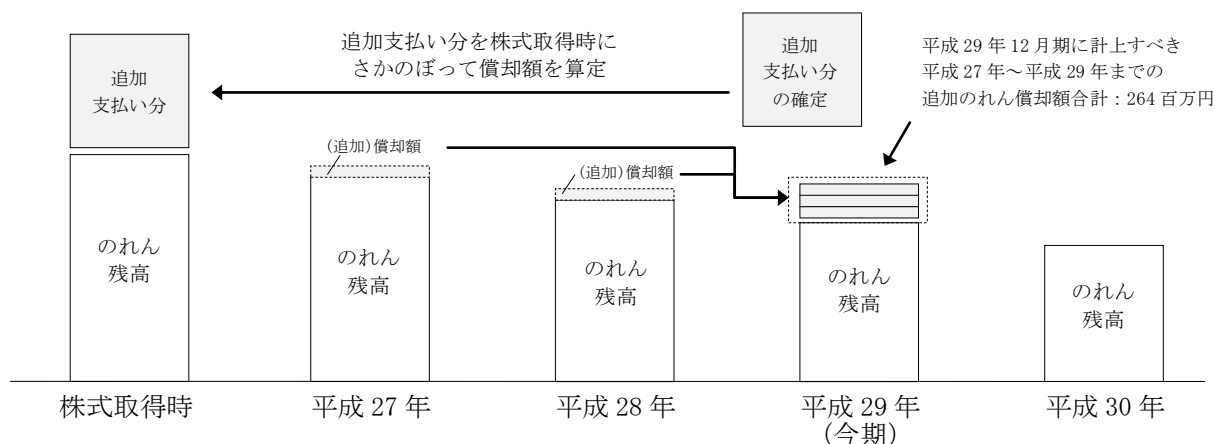
<業績確定後>



(2) 株式取得対価の追加支払いの発生に伴うのれん償却費、減損損失の金額の内容について

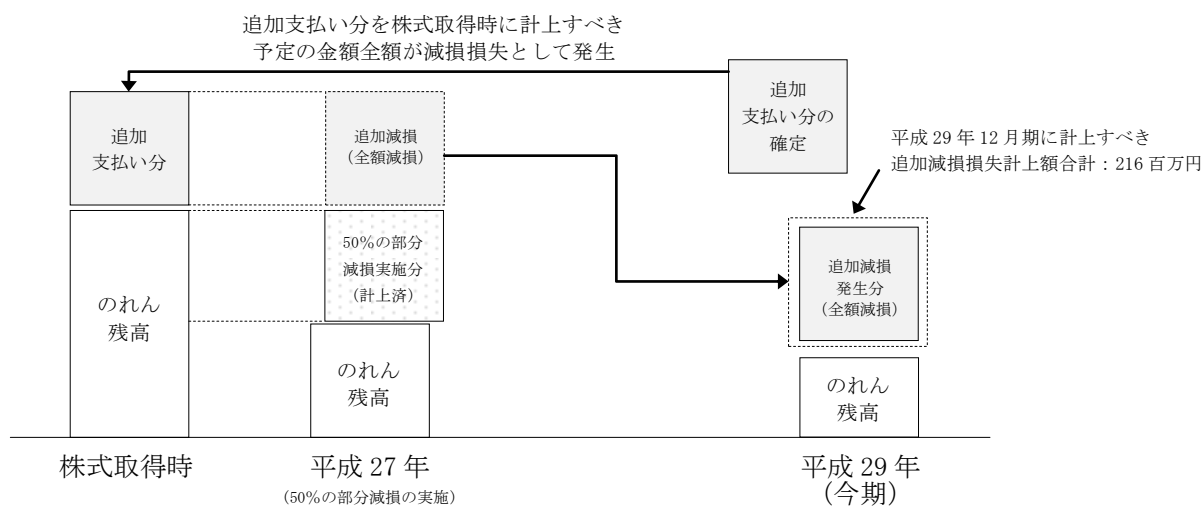
<のれん償却費について>

株式取得対価の追加支払い分を、株式取得時までさかのぼって計上した場合に発生した平成 27 年 12 月期から平成 29 年 12 月期までの 3 期分の のれん償却額の合計額 264 百万円を販売費及び一般管理費に計上いたします。



<減損損失について>

株式取得時から平成 29 年 12 月期までの間に減損損失を計上した拠点 (Kadence Indonesia , Kadence Vietnam) について、株式取得対価の追加支払い分として株式取得時に計上される予定だった金額全額を減損損失として計上する必要があるため、平成 29 年 12 月期において減損損失 216 百万円を特別損失に計上いたします。



(3) 平成 29 年 12 月期における当社の連結業績への影響について

(単位:千円)

	平成 29 年 12 月期 第 2 四半期累計期間	平成 29 年 12 月期 第 3・4 四半期会計期間	平成 29 年 12 月期 通期
販売費及び一般管理費 (のれん償却費)	219,725	43,945	263,670
特別損失 (減損損失)	215,529	—	215,529
合計額	435,254	43,945	479,199

2. 平成29年12月期 第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異 (平成29年1月1日～平成29年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,307	566	557	311	15.93
今回修正予想 (B)	8,141	411	340	△184	△9.43
事業上の差異	△166	65	3	2	—
Kadence HKの減損 による増減	—	—	—	△62	—
Kadence 追加支払い による差異	—	△220	△220	△435	—
増減額(B-A)	△166	△155	△217	△495	—
増減率(%)	△2.0%	△27.4%	△39.0%	△159.2%	—
(参考)前期実績 (平成28年12月期第2四半期)	7,299	429	367	141	7.20

3. 平成29年12月期通期連結業績予想の修正 (平成29年1月1日～平成29年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,350	1,400	1,382	825	42.24
今回修正予想 (B)	17,350	1,151	1,071	251	12.84
事業上の増減	—	15	△47	△33	—
Kadence HKの減損 による増減	—	—	—	△62	—
Kadence 追加支払い による増減	—	△264	△264	△479	—
増減額(B-A)	—	△249	△311	△574	—
増減率(%)	—	△17.8%	△22.5%	△69.6%	—
(参考)前期実績 (平成28年12月期)	15,969	1,342	1,267	837	42.85

(Kadence 社における本契約に基づく株式取得対価の追加支払いによる影響を平成29年12月期の業績に織り込んでいなかった理由及び織り込むこととなった理由)

Kadence 社の本契約に基づき、株式取得対価の追加支払い額を決定するプロセスとしては契約上も平成29年末まで時間を要することを想定していたことに加えて、業績条件の対象となる最終期にあたる今回のタイミングについては、金額の確定まで相当な時間を要すると見込んでおりました。(過去2期における金額確定までに要した時間は決算期末から、それぞれ約4か月、11か月となっております。)そのため、平成29年12月期中に追加支払い額が決定し、支払いを履行することは当初想定しておらず、平成29年12月期の業績予想に織り込んでおりませんでした。

しかしながら、平成29年上期におけるKadence社の業績進捗が非常に良く、本契約上一定の基準となっていた業績条件を達成することとなったことに加え、追加支払い額の交渉に時間・コストを費やすよりも、本契約に基づく支払いを速やかに終了させ、今後の海外リサーチ事業の成長に向けた議論・コミュニケーションを開始し、いち早くKadenceグループを新たな成長軌道に乗せることがグループ全体にとっても有益であると判断いたしました。

そのため、平成29年12月期の業績に与える影響としては下振れ要因となり、業績予想の修正を行うこととなりましたが、当社グループの成長に向けた体制構築が進んでいると考えております。

(第2四半期連結業績予想と実績値との差異の理由)

当第2四半期連結累計期間における売上高は、国内リサーチ事業において、主力であるクロス・マーケティング社は堅調に推移しておりますが、その他の事業会社において、一部大手顧客にて予算消化に遅れが発生し、下期以降に案件がずれている影響等により、予想を523百万円下回る結果となりました。

海外リサーチ事業については、Kadence UK が大型案件の受注により大幅に予想を上回って推移しているとともにIndonesia, Vietnam についても堅調に推移した結果379百万円上回る結果となりました。

ITソリューション事業については、主力のクロス・コミュニケーション社において一部案件納品が下期以降にずれ込んだ影響がありますが、受注状況は好調に推移しております。クロス・ジェイ・テック社は好調に推移しており、事業全体としては堅調に推移しておりますが、当初予想を82百万円下回る結果となりました。

その他の事業については、プロモーション事業を行うD&M社が前年に続き好調に推移しており、予想を59百万円上回る結果となりました。

各利益については、国内リサーチ事業における粗利率の改善、海外リサーチ事業における好調な進捗を反映し、当初予想を上回る結果となりましたが、Kadence社における株式譲渡契約に基づく株式取得対価の追加支払いによるのれん償却費220百万円、減損損失216百万円を計上したことにより、当初予想下回る結果となりました。上記に加えて、Kadence Hong Kongにおける事業環境の変化により、当初計画を下回る推移となっていることから、減損損失62百万円を特別損失として計上することといたしました。

結果として、売上高は8,141百万円(当初予想比166百万円減)、営業利益411百万円(当初予想比155百万円減)、経常利益340百万円(当初予想比217百万円減)、四半期純損失184百万円(当初予想比495百万円減)となりました。

(通期連結業績予想の修正の理由)

通期における売上高は、国内リサーチ事業において、主力であるクロス・マーケティング社は堅調に推移し、前年を上回る見込みとなっておりますが、その他の事業会社にて発生した上期における差異を取り戻すには至らないと想定しており、当初予想を357百万円下回ると見込んでおります。海外リサーチ事業、ITソリューション事業及びその他の事業の下期については、業績予想通りに推移すると見込んでおります。そのため、通期の売上高については、当初の予想通りと見込んでおります。

各利益については、国内リサーチ事業における生産性の改善による粗利率の改善、海外リサーチ事業における好調に推移しておりますが、上期において進捗が遅れていた人員採用を進捗させる予定としており、一部人件費・採用費が下期に増加を見込んでおります。

また、Kadence社における本契約に基づく株式取得対価の追加支払いによるのれん償却費264百万円、減損損失216百万円を計上するとともに、上期に計上したKadence Hong Kongにおける減損損失62百万円の影響も含め、各利益については、当初予想を下回る見込みとなっております。

結果として、売上高は17,350百万円(当初予想比通り)、営業利益1,151百万円(当初予想比249百万円減)、経常利益1,071百万円(当初予想比311百万円減)、当期純利益251百万円(当初予想比574百万円減)を見込んでおります。

※上記の予想は、当社が現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき、季節要因等を反映して作成しており、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上

## 参考資料

**Kadence社の株式取得における追加支払いの発生及び  
2017年12月期の業績に与える影響等について**

17年上期の業績進捗は**海外が牽引し順調**に推移  
通期も事業上は当初の予想を据え置き

17年上期の**営業CFは11億円を超え、過去最高**  
16年通期の営業CF4億円を大きく上回る

Kadence社の追加支払いの影響を早期に取り込み、  
**来期以降の成長へ向けた動きをスタート**

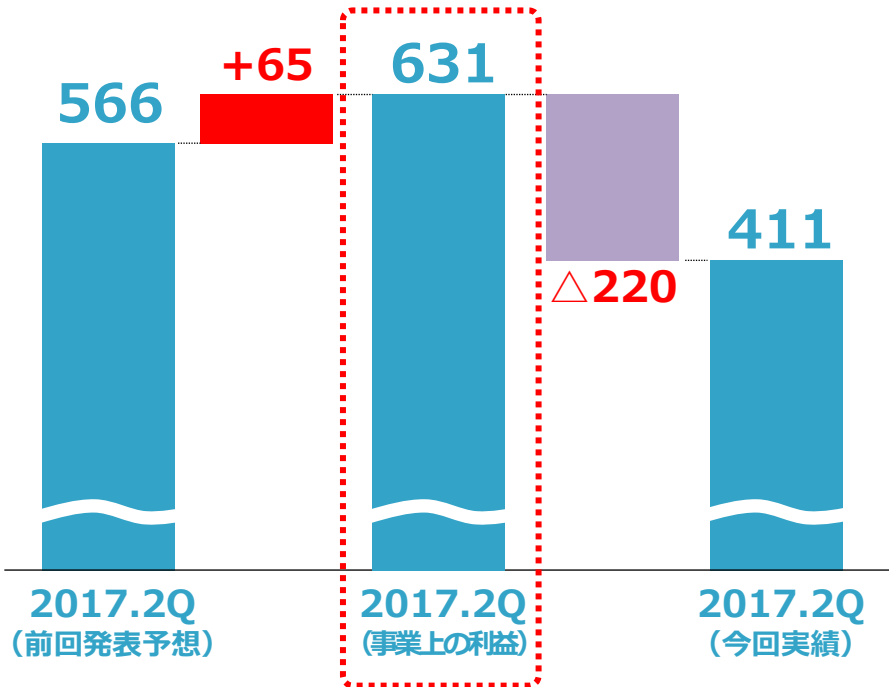
Kadence社における追加支払いの発生による費用は  
特殊要因であり、**期初予想していた配当金額を維持**

海外リサーチの牽引により**事業上は予想を上回る利益進捗**  
Kadence社による影響を加味した上で業績予想との差異が発生

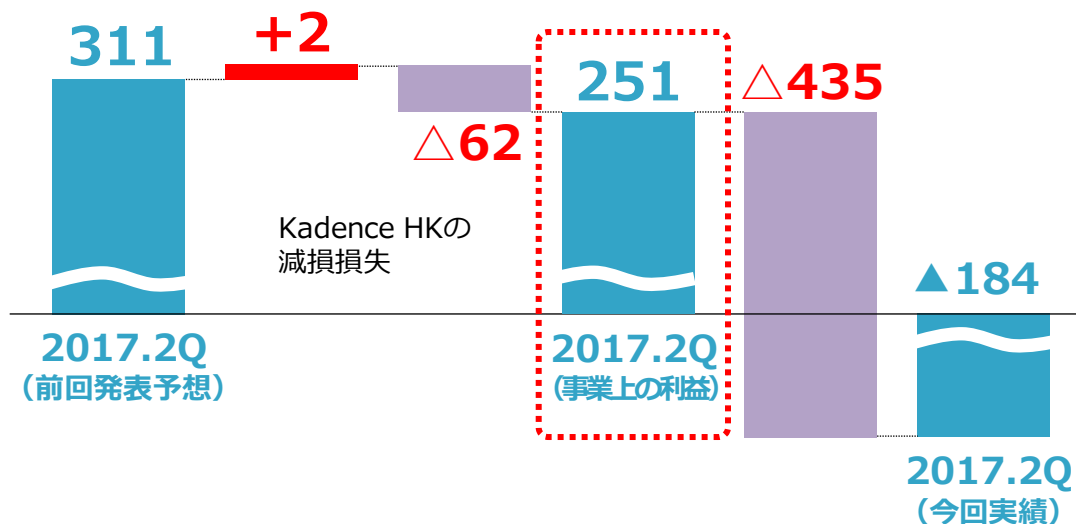
■ 事業上の差異    ■ Kadence社のEarn-Out条件による影響

(単位：百万円)

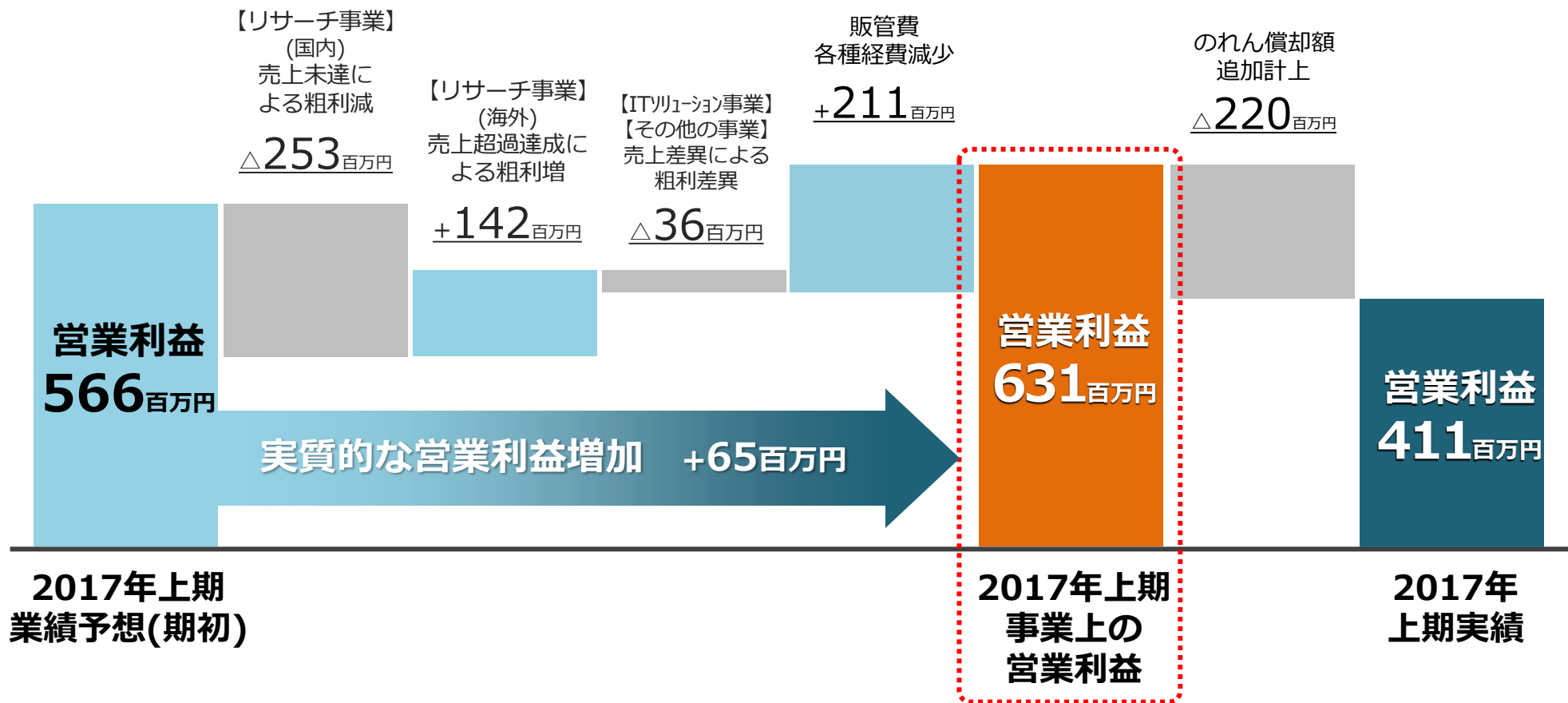
営業利益



四半期純利益

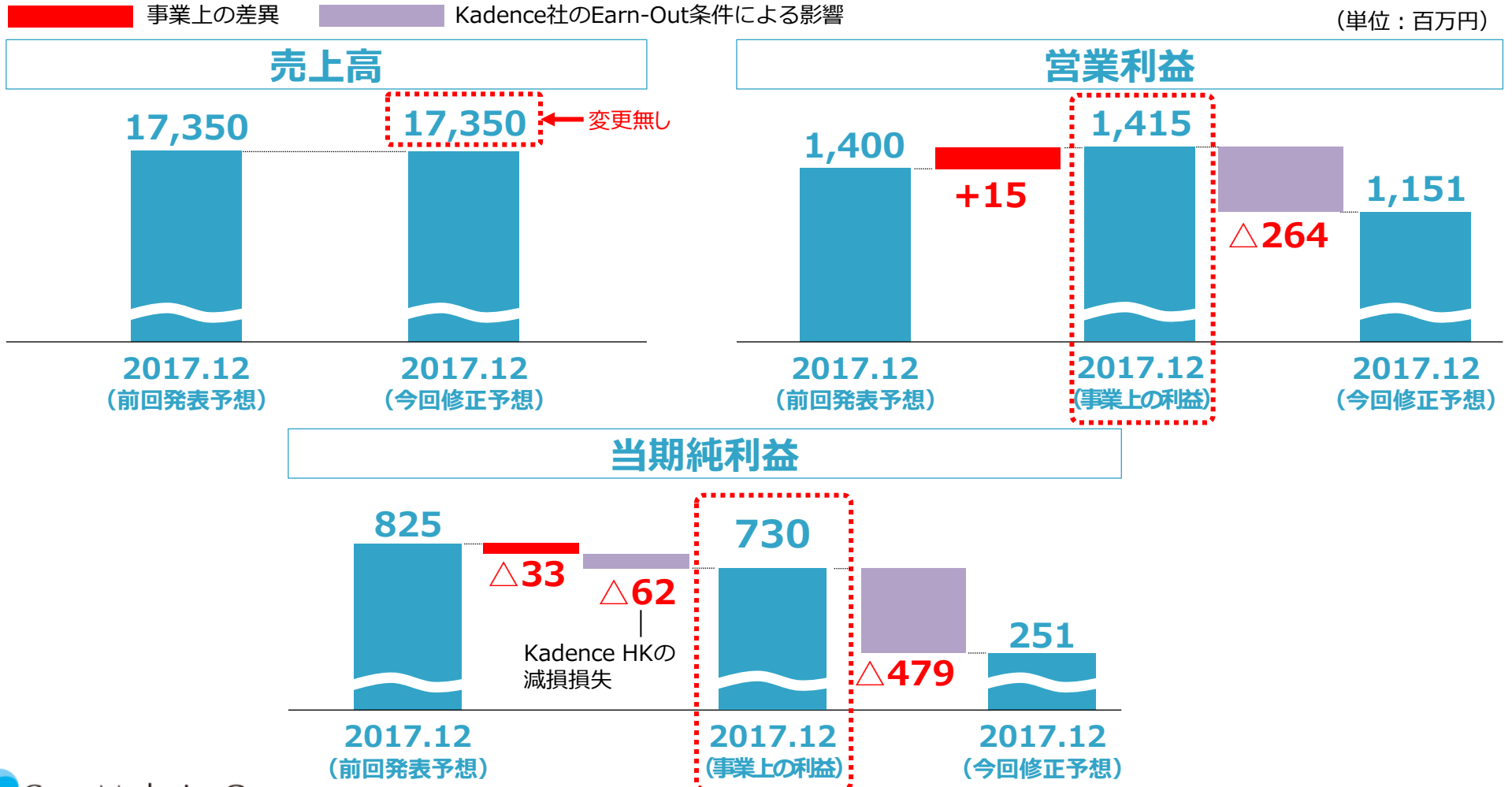


# 実質的な営業利益は海外子会社の牽引及び 販管費の差異により事業上の利益は業績予想を達成

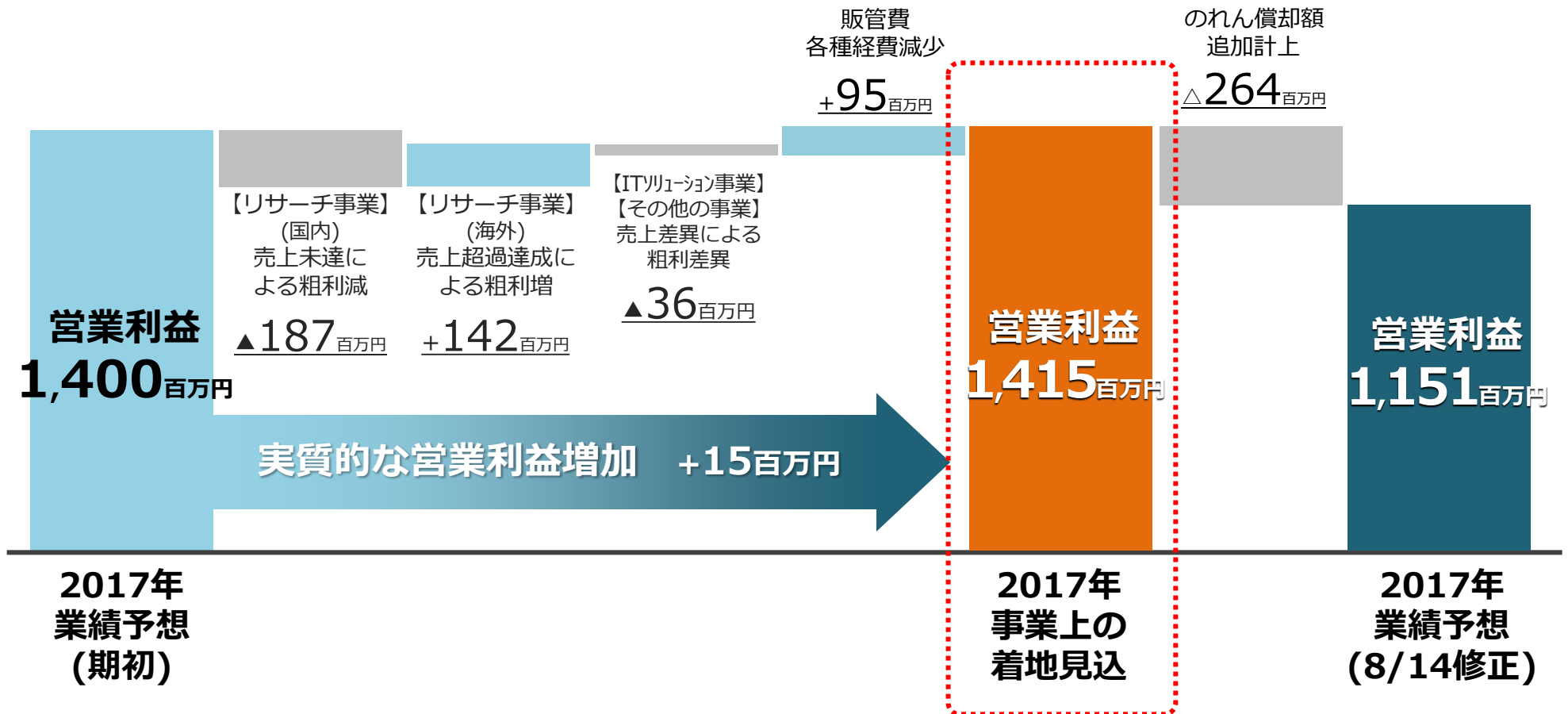




海外リサーチの牽引により**事業上の利益は予想を上回る見込み**  
Kadence社による影響を加味した上で通期の業績予想を修正



下期は当初の業績予想通りの見込み上期の差異を引き継ぎ、事業上の利益は当初予想を上回る予想

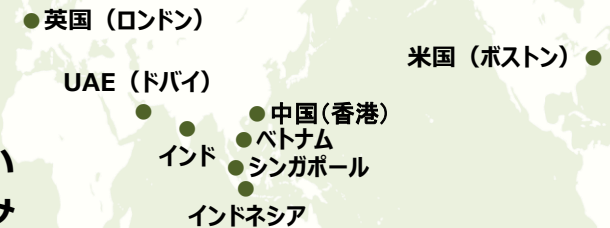


### Kadence社 子会社化の目的

- 成長が期待されるアジアにおける事業展開の加速
- グループ全体としてアジア全域にネットワークを構築

### Kadence社の概要

- 世界8か国で事業を展開
- 欧米のグローバルクライアントを顧客基盤に有し、アジアエリアでの質の高い提案力やレポート力を強みにサービスを提供



### Kadenceグループの業績推移

(単位：千USDドル)

【2014年11月】  
Kadence社の  
株式取得

27,351

2,164

2013年6月期

27,737

843

2014年6月期

29,520

353

2015年6月期

30,446

2,484

2016年6月期

35,563

5,112

2017年6月期

※上記はKadenceグループの6月期の実績を簡易連結した業績であり、監査済みの数値ではありません。

株式取得後、売上・利益ともに右肩上がりに拡大

## 海外リサーチ事業の今後の方針



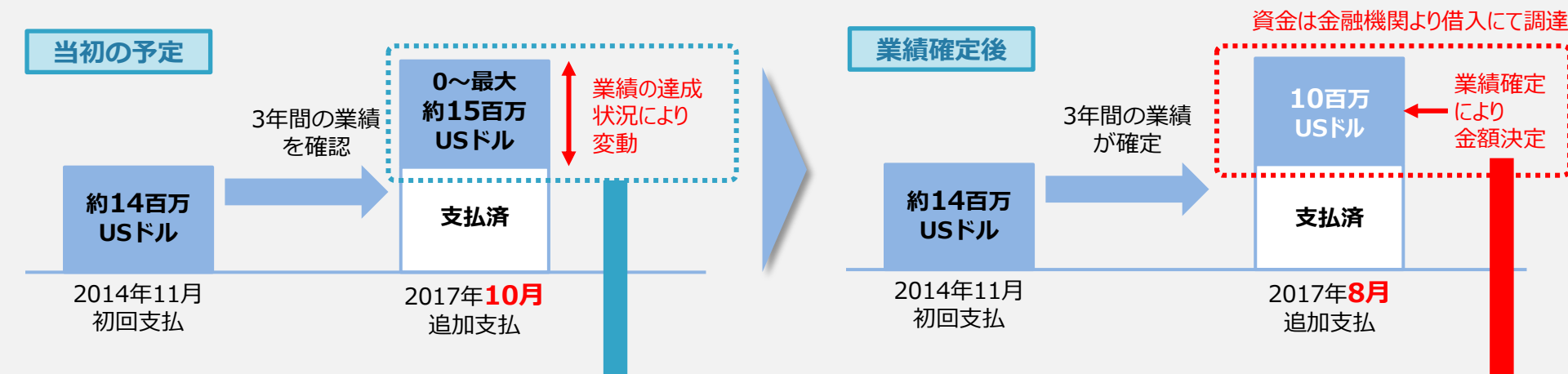
### 「One Kadence」

KadenceをCMGの海外ブランドとして、グローバルでの拠点展開・ノウハウ蓄積により市場におけるブランド認知を高めていく

 = 「Insights Consultancy」を目指すべき姿として、グローバルクライアントに創造性の高いインサイトサービスを提供

 を中心に、重複展開している拠点・エリアについて整理統合を実施

Kadence社 株式取得対価の追加支払条件（Earn-Out条件）



中期計画への反映について

- Kadence社の利益計画を業績条件よりも保守的に計画に織り込む
- のれん増加による販管費に与える影響は軽微(減損損失は想定していないため)

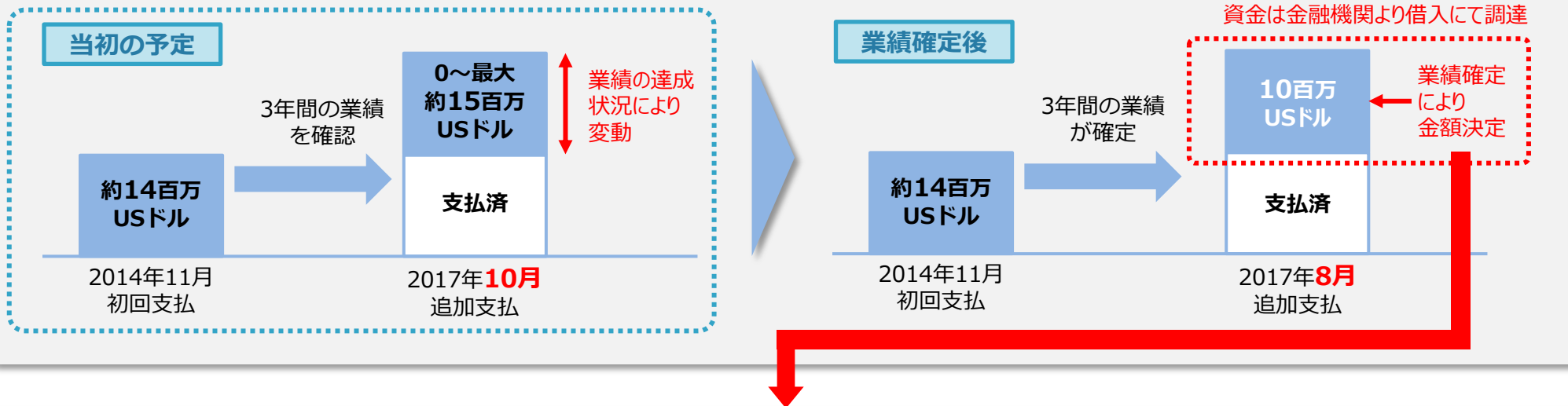
利益計画内で吸収可能と想定

2017年の業績予想への反映について

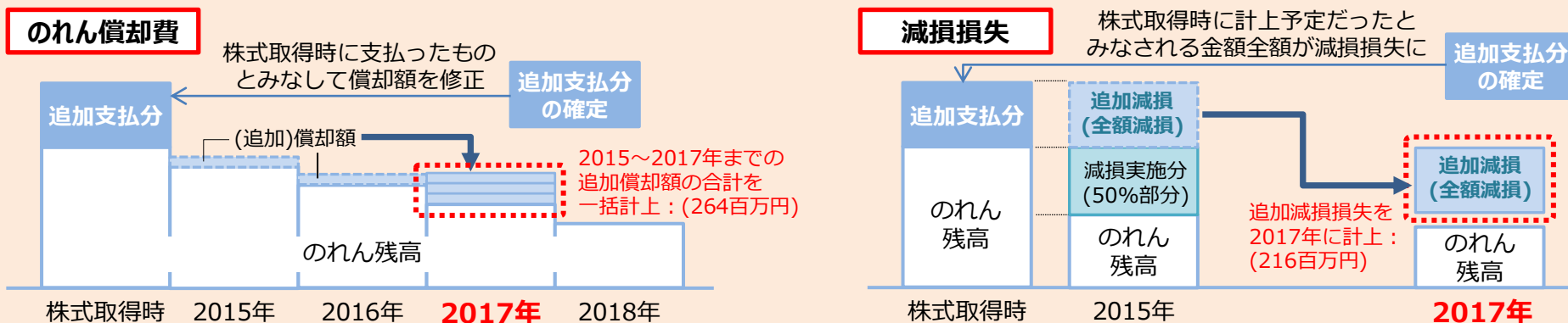
- 金額確定が来期に持ち越すと想定
- 今期の海外リサーチ事業の利益が好調に推移した結果、一定基準をクリア
- 今後の成長へ向けた取り組みを開始するため、早期に追加支払いを実施

業績予想には織り込んでいなかったが、  
来期以降へ向けて早期に取り込み

Kadence社 株式取得対価の追加支払条件



追加支払い分の確定に伴う2017年12月期におけるのれん償却費と減損損失の内容について



2017年12月期 第2四半期	業績予想 (期初時点)	事業上の 実績	Kadence社 追加支払い による影響額	業績予想 (今回修正)
売上高	8,307	8,141		8,141
営業利益	566	631	△ 220	411
経常利益	557	560	△ 220	340
四半期純利益	311	251 <sup>※</sup>	△ 435	△ 184
通期		事業上の 業績見込み		
売上高	17,350	17,350		17,350
営業利益	1,400	1,415	△ 264	1,151
経常利益	1,382	1,334	△ 264	1,071
当期純利益	825	730 <sup>※</sup>	△ 479	251

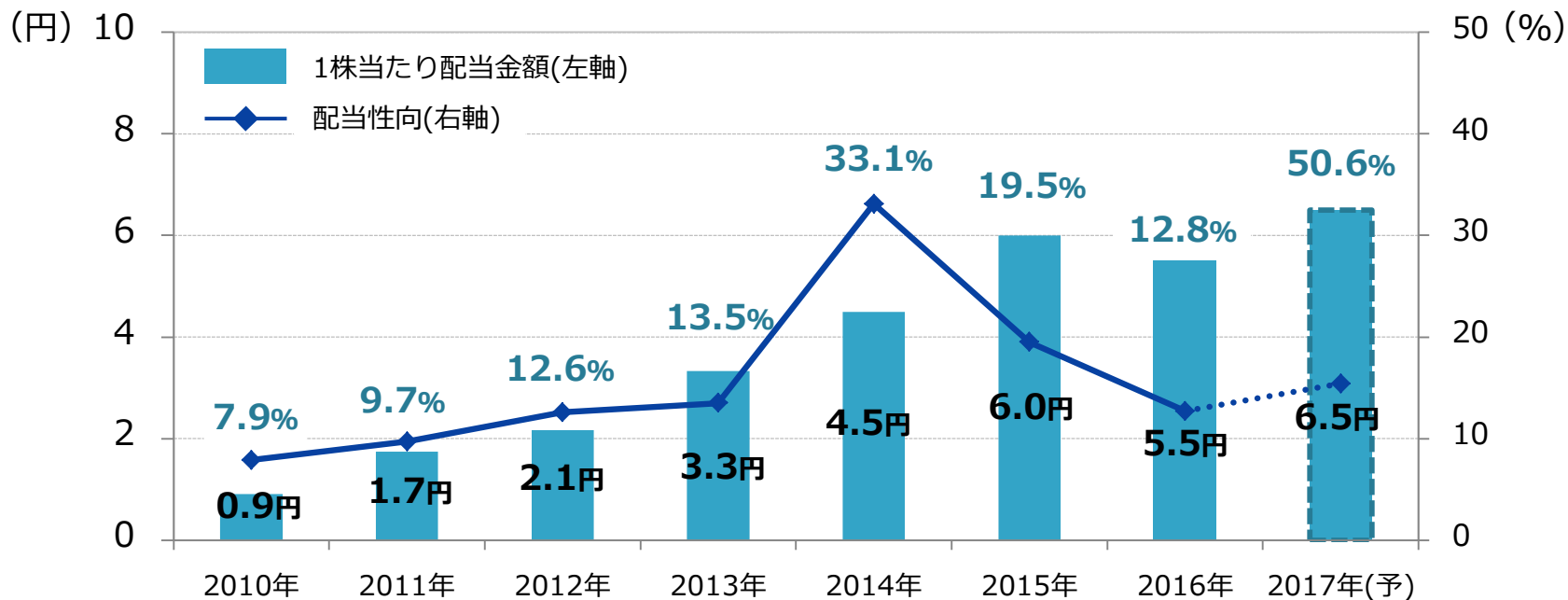
※Kadence HKの減損による影響(△62百万円)を含む

今期 Kadence社における追加支払いによって発生したのれん償却費・減損損失の追加計上は事業上の利益と直接的に関係の無い特殊要因のため、**期初予想していた配当金額を維持**

2017年12月期 配当金予想：1株**6.5円**(中間：3.25円、期末：3.25円)

### 配当方針

「連結配当性向15%前後を目安に配当金額を決定」



※当社は、株式を2013年2月18日に2分割、2014年6月1日に3分割しており、1株当たり配当金は過去に遡及して記載しております。  
 ※過去の1株当たり配当金は分割遡及後、小数点2位を切り捨てて記載しております。



## 本資料に関するご注意

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。

本資料に掲載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また 今後、変更されることがあることをご了承下さい。

### ～本資料に関するお問合せ先～

株式会社 クロス・マーケティンググループ グループ経営戦略部

Tel : 03-6859-2259 Mail : ir-cm@cross-m.co.jp